

敦賀市立博物館 日本横断！運河計画

開催期間：2024年10月18日（金）～2024年11月24日（日）



展示解説前の集合写真



関連史跡を歩く様子



玄関入口



展示の様子

【企画展の内容・目的】

- 北陸新幹線敦賀延伸という全国的に敦賀への注目度が集まる絶好の機会に、古代から「交通の要衝」としての役割を果たしてきた敦賀で、何度も俎上に上がった運河計画の歴史を紹介し、日本人と海運との繋がりを改めて学び、未来への展望を考える一助とする
- 運河計画の関連史跡を歩き、運河が一部実現した経緯を知り、昔の人が越え、海の恵みである塩を運んだ急峻な古道を歩き、誰もが知っている日本の歴史と敦賀港の歴史が交差し紡がれている様子を現地で実感する
- 本展示会の下地となった運河計画についての論文を書かれた学識経験者に講演依頼をし、その歴史的背景をより詳しく説明してもらい、聴講者が敦賀の特異な歴史事項に興味関心を持つようながし、地域振興に寄与する

1. 企画展示の内容

■開催期間：2024年10月18日（金）～2024年11月24日（日）

■開催場所：敦賀市立博物館 2・3階展示室

■入場者数：2,580人



敦賀市立博物館 外観



特別展2階展示室入り口



開鑿を試みた平重盛運河伝説紹介コーナー

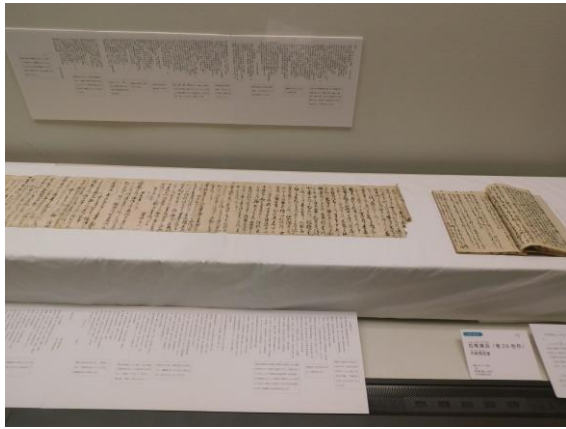


越前敦賀古図等展示物

第1章では古代敦賀を想像した絵図や延喜式（版本）などを展示し、運河計画の前提ともなる古の国際都市・敦賀について説明した。

琵琶湖を介し、日本海側の港湾都市では都に一番近い敦賀には、渤海人や高麗、中国の人々が商売や交渉をするため頻繁に訪れており、海を介しての大陸との交流等を紹介し、さらに敦賀の運河伝説の最初に紹介される平清盛の息子・重盛が敦賀に来て運河を掘ろうとして失敗した場所に堀留地蔵（別名塩かけ地蔵）があり、琵琶湖では生産できない塩が、古道を通り敦賀から塩津（滋賀県）まで運ばれた事と、重盛の運河伝説とが共に語られる事を紹介し、敦賀からの海と湖を繋ぐ輸送ルートが、人々の生活に欠かせない塩を運ぶルートであること等から、流通と運河の関係を確認した。これらの事から運河という発想が生まれたかもしれない事を示した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



寛文9年（1669）運河計画書



江戸時代に何度もあった運河計画関連資料

第2章では現在確認されている一番古い時期（寛文9年（1669））の、実際の運河計画が書かれた古文書を展示した。くずし字の文書に活字の簡単な説明をつけ、難しそうな古文書をなるべく平易にして来館者が理解を深めるよう心がけた。

江戸時代の運河計画が、西廻り航路という海運史において大きな転換期をきっかけとなして発起されたことや、享保の改革や田沼意次の政治等、幕府の方針に沿った形で計画されてきた歴史を、実際の史料を示して説明した。江戸時代の運河計画は、夢や伝説というだけでなく、日本社会の動向に連動し、経済的な点からも真剣に企画されていたことを示した。



高樹文庫資料（射水市新湊博物館保管・重要文化財）展示の様子

第3章では、異国船が日本近海に出現するようになった幕末に、長期間海上を航海しななければならない西廻り航路より、より安全である敦賀―琵琶湖―京都ルートが再び注目され、実際に一部の運河が設置された事を紹介した。高度な専門技術を持った加賀藩の石黒家を中心とする測量チームが敦賀を訪れ、精密な絵図を作成していたことを示す資料を、実物（重要文化財）と複製やパネル等で展示し紹介した。海（太平洋）に通じる運河設置という近代への橋渡しとなった運河計画を想起してもらえるように工夫した。



昭和の運河計画を周知するための雑誌類



昭和の運河計画についての内容を説明するためのスクリーンや実際の調査書

第4章では、明治から昭和までの運河計画を紹介した。実際の計画書や図面、周知のための印刷物等複製も交えて多数展示し、運河計画が盛んであったことを示した。

数多くの計画がありながら結果として実現しなかったため、荒唐無稽なおとぎ話の様に思われている運河計画であるが、近代の土木技術を基盤に、実現性を備えた計画が立案されていた。特に近代は、琵琶湖疏水に代表される成功例も踏まえてより現実的な日本海と太平洋を繋ぐ計画が立てられており、これらを可能な範囲で紹介した。最後の計画とも言える昭和30年代の計画については、パンフレットや啓発発行物、各種報告書などを揃え、データも詳細に紹介して、そのスケールの大きさを伝える工夫を凝らし、未来につながる可能性を示唆した。

海運史および陸上交通史と連動して画策された運河計画を通して、港湾と琵琶湖という条件を備える敦賀の特殊性、独自性への理解を深め、地域文化の振興に大きく寄与することができた。

【来館者の声】

- 海運に興味が湧いた。また北前船のことなど特集してほしい。
- 中世～近代の海運が経済に与える影響が、そこに住む人の考え、価値観にも大きく影響したのだらうと思いました。
- 敦賀港の古来からの重要性、要衝であったことがわかり、海の環境保全の大切さを認識した
- むかしのひともいまのひともうみをだいじにしていることをまなびました。
- 運河で結んだ先に何があるのかをイメージすることができた。計画した人たちの情熱が感じられた。
- 敦賀は海運と鉄道で栄える都市である事をあらためて実感。
- S39～40頃、勤務先（運輸省）で勉強せよ！！にて少しタッチ致した。土木としていろいろと計画から実施を致した。非常に懐かしい思い持ちました。

2. 関連事業の内容

■記念講演会①「敦賀から琵琶湖を結ぶ加賀藩の大運河計画」

■記念講演会②「日本横断！運河計画―敦賀～琵琶湖運河計画と琵琶湖の新田開発―」

【開催日時】①2024年11月 2日（土）14:00～ 16:00

②2024年11月16日（土）14:00～ 16:00

【開催場所】敦賀市立図書館 3階研修室

【参加者数】①55名 ②100名

【実施内容・目的】

- 歴史研究者を講師に招き、運河計画に関連する資料から分かる知見について講演していただき、四方を海で囲まれた日本におけるダイナミックな物資の流れや、運河計画が幕府政策や社会的状況といった日本史と密接に関連していることを知る機会とする。
- 博物館では駐車場が狭いため、聴講者が参加しやすく、敦賀駅にも近い図書館を会場として、歴史愛好会による地元任意団体と協力・連携して行い、参加者確保につなげた。



記念講演会①開催場入口（図書館3階）



記念講演会②の様子

記念講演会①では、横8メートル近くの敦賀の疋田舟川の絵図など、展示の目玉であった重要文化財を所蔵する高樹文庫の概要や、江戸時代のものにも関わらず、現在と変わらない精度の地図の作成過程について、根拠を以て分かりやすく説明していただく事を主に、加賀藩の運河計画が実は琵琶湖から敦賀に留まらず、京都を経て上方までの構想だったとの指摘から、先人の知恵や先見性を学ぶことが出来た。

また敦賀から離れた場所（富山県射水市）にある史料（重要文化財）に、敦賀を中心とする地域の史料が現存することの面白さやその歴史的繋がりを感じることが出来た。



記念講演会②開催場入口（図書館3階）



記念講演会②の様子

古文書や絵図などの江戸時代の史料に、いったい何が書かれているかという丹念な解説や、分かりやすく詳細な歴史的背景の説明から、江戸時代の運河構想は、新田開発を主とする幕府の意向と、その社会的状況に影響を受けて計画されていた事が分かった。一般の参加者はもちろん、市民にとっても郷土の歴史が日本史の授業で習った幕府政策と密接に連動していた事を知り、興味関心を持てる機会となった。

【来館者の声】

- 海または湖と河川が物流の動脈として期待された歴史的経緯が学べたこと。
- 海が持つ資源や運輸に必要な部分をしっかりと理解して、海を大切にしていかなければいけないと思いました。
- 海運・水運で物を運ぶことの大変さ、大切さを知りました。海（水）を上手く利用して生活を豊かにしていった歴史の厚みを感じました。

■歴史ウォーキング～足田舟川・深坂古道周辺を歩く～

【開催日時】2024年10月27日（日） 10:00～12:00

【開催場所】舟川遺構―深坂古道（福井県敦賀市足田地区―追分地区）

【参加者数】8名

【目標・内容】

●運河計画が一部叶ったとされる実際の遺構や、そこから数十分の場所にある古代の街道を歩き、一地域にとどまらない日本の物流や経済活動に結び付き、海と湖を介しての歴史を紹介し、歴史文化に対する興味関心や意識向上につなげた。



舟川遺構ガイド施設前での集合写真



舟川遺構ガイド施設での見学の様子



舟川遺構見学の様子



深坂古道の集合写真

遺構見学では物資が海から山の中の集落まで運河でどの様に運ばれたのかを説明した。また、紫式部をはじめとする官人が通った深坂古道では、敦賀周辺地域で生産された塩が、琵琶湖湖畔の塩津に運ばれた古代のソルトロードと思われる事などを歩きながら紹介し、海と湖を介しての地域や経済活動に関する歴史を実感する機会となった。

【来館者の声】

- 海と川の継がりを感じた。
- 日本にとって海は道であること。
- 敦賀にはきれいな川が多くあり、その水は海に流れ込む。これからも川の清らかさを保っていきたい。

■展示説明会

【開催日時】①2024年10月19日(土) 13:30～

②2024年11月17日(日) 10:30～

③2024年11月17日(日) 13:30～

④2024年11月24日(日) 13:30～

【開催場所】敦賀市立博物館

【参加者数】①12名 ②13名 ③15名 ④12名

【目標・内容】

- 古文書や絵地図といった一般的にぱっとみて分かりにくい史料の概要を、担当学芸員が解説することで、日本史を背景とする港湾と敦賀との関係について、より深い理解を求める。
- 展示キャプションだけでは伝わりにくい、運河計画の面白い歴史を説明し、興味をもってもらうことから、未来の港湾の姿の想像を促す。



展示解説の様子



展示解説の様子

キャプションだけでは伝わり切らない古文書の多様で複雑な情報を、言葉で補足することで、運河計画が海洋国日本の歴史と繋がったものであるという概要や、港湾を擁する地域をささえた人々にとっても、その生業と密接に関係したものであったという事実をより深く理解してもらい、地域振興への手がかりを示すことができた。

【来館者の声】

- 海は物流など人々の生活の基盤であり、これからも大切にしていかなければならない。
- 学芸員の方の熱意、説明により概要が良くわかった。
- 展示物を前に説明を聞くとより理解できた。
- 疋田舟川について学びました。

【事業全体のまとめ】

古代から近代までの歴史の流れを追いながら、実際の貴重な資料（重要文化財）や、新出資料を展示し、敦賀の特異な歴史の紹介と、日本の港湾の未来を想像できる展示が出来た。アンケートのご意見からも手ごたえを感じたが、地方博物館の使命である地域特有の歴史文化の再発見や、観光振興のヒントとなる事業を展開できた。地元だけでなく関西地方の広報媒体を利用し広報も行ったことで、市民はもちろん市外の皆様へも展示を周知することが出来た。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 気比史学会	講演会開催及びその補助と、チラシの配布等広報についての協力
2. 若狭路文化研究所	「くずし字」に関しての解読協力及びチラシ配布等の広報についての協力
3. 日本海地誌調査研究会	一部の史料について、借用についての仲介協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 福井新聞 fusinfo	「かつて、敦賀と琵琶湖を運河で結ぶ幻の計画があった。」10月22日
2. 福井新聞本誌ぷりん	趣味・娯楽「日本横断！運河計画！」10月13日
3. 京都新聞 Iru miru	秋のおすすめイベント「令和6年度敦賀市立博物館特別展」10月5日

以上